

青森県教育委員会第922回定例会会議録

1 期 日 令和7年11月12日（水）

2 開 会 午後1時30分

3 閉 会 午後1時40分

4 場 所 教育委員会室

5 議事目録

議案第1号 青森県スポーツ推進審議会委員の人事について・・・・・・原案決定
その他 青森県立高等学校魅力づくり推進計画前期実施計画策定に向けた
地区懇談会の実施状況について
その他 職員の懲戒処分の状況について

6 出席者等

- 出席者の氏名

風張知子（教育長）、平間恵美、新藤幸子、安田 博、松本史晴、中野博之

- 欠席者の氏名

なし

- 説明のために出席した者の職

坂上教育次長、早野教育次長、高橋教育政策課長、伊藤職員福利課長、下山学校教育課長、小関教職員課長、福士学校施設課長、清川生涯学習課長、高井スポーツ健康課長、山舘文化財保護課長、佐藤高等学校教育改革推進室長

- 会議録署名委員

平間委員、中野委員

- 書記

工藤奈保子、佐藤栞

7 議 事

議案第1号 青森県スポーツ推進審議会委員の人事について

(高井スポーツ健康課長)

スポーツ基本法及び青森県スポーツ推進審議会条例の規定に基づき、本県のスポーツ推進計画その他のスポーツの推進に関する重要事項を調査審議する機関として設置している青森県スポーツ推進審議会の委員の任期が、令和7年11月12日をもって満了するため、新たに17名の委員を委嘱するものである。

今回委嘱する委員のうち、新任は、橋本博子氏、吉田理子氏、三本木温氏、千葉さおり氏、大室康平氏の5名で、太田尚人氏ほか12名は再任である。

なお、大室康平氏は、公募により選考した委員である。

また、委員の任期は、令和7年11月13日から令和9年11月12日までの2年間となる。

(教育長)

何か質問、意見はあるか。なければ議案第1号については原案のとおり決定する。

その他 青森県立高等学校魅力づくり推進計画前期実施計画策定に向けた地区懇談会の実施状況について

(佐藤高等学校教育改革推進室長)

青森県立高等学校魅力づくり推進計画前期実施計画の策定に向けて、10月14日、15日、16日、17日、20日に県内6地区で開催した地区懇談会の概要について報告する。

地区懇談会では、今月に県内6地区で開催する学校の在り方地区検討委員会の検討の参考とするため、地区の実情に応じた学校像等の学校の在り方や、その学校の在り方を踏まえた具体的な学校配置について意見をいただいた。資料に一覧として取りまとめているため、その一部について紹介する。

【学校の在り方】に関する意見としては、No. 1 「『本県の先頭に立ち将来の青森県を担いリーダーとして活躍する人財や、本県のみならず将来の日本を担う優秀な人財を育成する学校』、『本県や地域の先頭に立ち本県や地域に貢献できる人財を育成する学校』、『スポーツ等の学力以外で秀でた能力を伸長できる学校』が必要。」。

No. 2 「様々な事情を抱えた生徒にも、基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける学習を保障し、社会で生きていくために広く必要となる資質・能力を育成する学校が必要。」。

No. 5 「生徒数の減少により、部活動の維持が難しくなることが予想されるが、そのような状況であっても文武両道を目指すことができる学校を配置してほしい。」。

No. 8 「一定規模の高校がいくつもある状態が理想的であるが、個別最適な学びの観点から、小規模校であっても地域との関わりが深い高校は郡部に必要。」。

No. 14 「普通科でもデジタル分野を学べるようにしてほしい。」。

No. 15 「グローバル探究科のIBコースの教育活動は、次期学習指導要領が目指すものと合致しているため、今後は、このような教育活動の更なる充実と他校への広がりを期待している。」。

N o. 16 「本県の人口減少を踏まえると地元に定着する人財育成が必要であり、産業界と意見交換しながら職業学科の配置を十分に検討してほしい。」。

N o. 22 「特別な事情を抱えた生徒や不登校生徒が増加している中、定時制高校や通信制高校がそのような生徒の受け皿になっている。定時制高校は各地区に配置されているが、それでも通学に負担を感じる生徒もいることから、全日制高校の通級を拡充する必要がある。」。

などの意見があった。

【学校配置】に関する意見としては、N o. 26 「1校を集中的に学級減すると、学校規模が急激に小さくなり活力が失われ、充実した教育活動の展開が困難になることから、満遍なく学級減していくのがよい。」。

N o. 27 「所在市町村の生徒数の減少に合わせて学級減を行うのではなく、地区全体の状況を踏まえた学校配置を考える必要がある。」。

N o. 28 「一律に学級減で対応するのではなく、市部の高校は統合して教育の質を確保することが必要。」。

N o. 29 「一定の学力を保つためにも、普通科においては定員割れが起きない募集学級数とした方がよい。」。

N o. 30 「商業高校、水産高校、農業高校については定員割れが顕著であり、これらの高校が単独校として存続するイメージがつかない。小規模校として残すことを考えるよりも、統合しキャンパス制とする方がよい。」。

N o. 31 「郡部の高校は存続させてほしい。」。

N o. 43 「通信制課程や昼間定時制課程を設置するなど、多様な学習環境を充実させるよう検討してほしい。」などの意見があった。

【その他】に関する意見としては、N o. 47～54 少人数学級編制の実施校の拡充等に関する意見や、N o. 59～62 通学支援の実施等に関する意見などがあった。

(教育長)

何か質問、意見はあるか。なければ青森県立高等学校魅力づくり推進計画前期実施計画策定に向けた地区懇談会の実施状況については、青森県教育委員会として了解した。

その他 職員の懲戒処分の状況について

(教育長)

職員の懲戒処分の状況については、資料のとおりである。何か質問、意見はあるか。

職員の懲戒処分の状況については、青森県教育委員会として了解した。